

# 平成29年度事業報告

## 事業報告

### (1) 学術集会および会務

#### A) 学術集会

1. 第65回学術集会（平成29年4月6日～8日）  
会場：京王プラザホテル  
会長：草地信也（東邦大学医療センター大橋病院外科）
2. 第64回東日本支部総会（平成29年10月31日～11月2日）  
会場：京王プラザホテル  
会長：河合 伸（杏林大学医学部総合医療学教室感染症科）
3. 第65回西日本支部総会（平成29年10月26日～28日）  
会場：長崎ブリックホール  
会長：迎 寛（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科呼吸器内科学分野（第二内科））
4. 関連国際学会として  
30th International Congress of Chemotherapy (ICC 2017)  
平成29年11月24日～27日（台湾）

#### B) 会務

1. 年度末正会員数 7,840名  
年度末賛助会員数 26団体、団体会員数 128団体
2. 平成29年度評議員会、同定期総会は平成29年5月28日に東京国際フォーラムで開催された。
3. 新評議員（平成29年4月～平成30年3月）  
東日本支部7名（現在 217名）  
加藤 英明（横浜市立大学附属病院血液免疫感染症内科・感染制御部）  
鈴木 広道（筑波メディカルセンター病院感染症内科）  
高橋 孝（北里大学大学院感染制御科学府・感染症学研究室）  
樽本 憲人（埼玉医科大学感染症科・感染制御科）  
仲村 究（福島県立医科大学感染制御学講座・感染制御室）  
藤倉 雄二（防衛医科大学校感染症・呼吸器内科）  
吉澤 定子（東邦大学医学部臨床研究支援センター/微生物・感染症学講座）

西日本支部 7 名（現在 193 名）

浦上 宗治（佐賀大学医学部附属病院感染制御部）

金子 幸弘（大阪市立大学大学院医学研究科細菌学）

川村 英樹（鹿児島大学病院医療環境安全部感染制御部門）

畑 啓昭（国立病院機構京都医療センター外科・感染制御部）

古土井春吾（神戸大学大学院医学研究科外科系講座口腔外科学分野）

森永 芳智（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病態解析・診断学）

山田 康一（大阪市立大学医学部臨床感染制御学講座）

#### 4. 理事会 5 回開催

平成 29 年 4 月、5 月、9 月、11 月、平成 30 年 3 月

### C) 事業報告

#### 1. 編集委員会

##### 1) 日本化学療法学会雑誌（委員長 舘田一博）

・編集委員会 6 回開催

・編集状況

平成 29 年 第 65 巻 3 号～6 号

一般誌 4 冊（掲載論文数 27 編）

平成 30 年 第 66 巻 1 号～2 号

一般誌 2 冊（掲載論文数 3 編）

その他編集中 1 冊

・第 66 巻 1 号より冊子の表紙を変更した。

・日本化学療法学会雑誌 第 65 巻 3 号より、冊子体を希望者のみに送付した。

##### 2) Journal of Infection and Chemotherapy（委員長 高橋 聡）

・編集委員会 6 回開催

・編集状況

平成 29 年

Vol. 23 No. 4～12（掲載論文数 128 編）

平成 30 年

Vol. 24 No. 1～3（掲載論文数 42 編）

・電子版を 12 号、冊子版を 2 号合併号として 6 冊発刊した。

・利益相反に関する指針に「医学系研究、特に侵襲性のある介入研究実施にかかる注意事項」を追加したため、投稿規定を改訂した。

・JIC Award 受賞

川元康嗣 他（長崎大学病院検査部）

「TNF- $\alpha$  inhibits the growth of *Legionella pneumophila* in airway epithelial cells by inducing apoptosis」

(Vo.23 No. 1 p.51～55)

### 3) 用語委員会（委員長 舘田一博）

ホスラブコナゾール L-リシンエタノール付加物ラブコナゾール（F-RVCZ）およびその活性本体：ラブコナゾール（RVCZ）、新規セファロsporin系抗菌薬と既存のβラクタマーゼ阻害剤の合剤タゾバクタム・セフトロザン（CTLZ）の略語について検討を行った。

## 2. 広報委員会（委員長 堀野哲也）

日本化学療法学会雑誌 第65巻4号（7月）より希望者のみに配布することになった為、会員の送付希望の有無を確認し、会員に最新号の目次と学会からのお知らせをメールで配信した。

## 3. 学術委員会（委員長 岩崎博道）

・学術奨励賞受賞者

第65回学術集会

早川 幸子（東北医科薬科大学大学院薬学研究科臨床感染症学）

「活性酸素種と抗菌薬負荷による緑膿菌の交叉耐性について（第3報）」

西山 直哉（愛知医科大学病院感染症科）

「当院における*Clostridium difficile*感染症に対するメトロニダゾール注射薬の使用実態と成績」

日本化学療法学会雑誌 第65巻5号 p. 751-757

前田 真之（昭和大学薬学部臨床薬学講座感染制御薬学部門）

「血液培養陽性患者に対する抗菌薬適正使用支援プログラムに基づく早期介入のアウトカム評価—後ろ向き準実験的研究—」

Journal of Infection and Chemotherapy Vol.23 (9) p. 598-608

武田 和明（長崎大学病院検査部）

「Tedizolid inhibits MUC5AC production induced by methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* in human airway epithelial cells」

## 4. 学会賞選考委員会（委員長 徳江 豊）

志賀潔・秦佐八郎記念賞および上原感染症・化学療法研究奨励賞の候補者について検討し、選考を行った。

志賀潔・秦佐八郎記念賞

受賞者：門田 淳一（大分大学医学部呼吸器・感染症内科学講座）

研究テーマ：「呼吸器感染症におけるマクロライド系抗菌薬の治療戦略に関する研究」

上原感染症・化学療法研究奨励賞

受賞者：賀来 敬仁（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病態解析・診断学）

研究テーマ：「重症感染症ならびに抗菌薬投与による腸内 microbiome の変化と乳酸菌製剤の効果」

## 5. 国際渉外委員会（委員長 川名明彦）

- ・ 27th ECCMID (European Congress of Clinical Microbiology and Infectious Diseases; 2017年4月22～25日ウィーン) において、 舘田一博委員がESCMID 国際委員会に出席した。
- ・ 30th ICC (International Congress of Chemotherapy and Infection; 2017年11月24～27日台北) において当学会との共催セッション「Combat to Antimicrobial Resistant Pathogens」 および「Antimicrobial stewardship in Asia」を開催した。
- ・ 17th Asia-Pacific Congress of Clinical Microbiology and Infection (香港) の共催シンポジウムを企画した。

## 6. 三学会合同ブレイクポイント臨床応用検討委員会（委員長 舘田一博）

当学会が設定している抗菌薬ブレイクポイントに関して、感受性分布成績、PK/PD データ、実験成績、臨床効果などを参考に見直し作業を行い、フルオロキノロン系抗菌薬に関して新しいブレイクポイントを設定した。

## 7. 抗菌化学療法認定医認定制度審議委員会（委員長 青木洋介）

- ・ 抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催  
年次テーマ：抗菌薬適正使用およびその推進 -Drive Ahead-  
第42回 平成29年4月6日（木）京王プラザホテル  
第43回 平成29年5月28日（日）東京国際フォーラム  
第44回 平成29年10月26日（木）長崎ブリックホール  
第45回 平成29年10月31日（火）京王プラザホテル
- ・ 委員会を数回開催した。
- ・ 第43回の映像収録し、e-learningを作成した。
- ・ 平成29年12月3日（日）に第7回指導医試験を実施した。
- ・ 本年度指導医・認定医・認定歯科医師新規申請、認定更新申請を受付し、認定した。
- ・ 平成30年1月1日付けで認定証を発行した。

## 8. 抗菌化学療法認定薬剤師制度委員会（委員長 森田邦彦）

- ・ 抗菌化学療法認定薬剤師講習会を開催した。  
第17回 平成29年9月22日（金）国立京都国際会館  
第18回 平成29年11月2日（金）幕張メッセ国際会議場
- ・ 認定薬剤師試験を平成30年2月4日（日）に実施した。
- ・ 3月1日付で認定薬剤師を認定した。
- ・ 薬剤師講習会用テキストの改訂作業を始めた。

## 9. 三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会（実務委員長 渡辺 彰）

### 1) 第4回（2012年）

- ・ 呼吸器感染症（6回目・1,236株）

論文を Journal of Infection and Chemotherapy (JIC) (2017;23(9):587-597) に掲載した。

### 2) 第5回（2013年）

- ・皮膚科領域感染症（初回：860株）  
論文を JIC（2017;23(8):503-511）に掲載した。
  - ・歯科口腔外科領域感染症（初回・847株）  
論文を執筆している。
- 3) 第6回（2014年）
- ・呼吸器感染症（7回目:1,534株）  
論文を執筆している。
  - ・手術部位感染（SSI）（2回目：883株）  
論文を JIC（2017;23(6):339-348）に掲載した。またサブ解析の結果を JIC（2018;24(5):330-340）に掲載した。
- 4) 第7回（2015年）
- ・複雑性尿路感染症（3回目:833株）  
38薬剤の感受性測定結果を解析し、報告書にまとめた。また、論文を執筆している。
  - ・急性単純性膀胱炎（2回目：263株）  
19薬剤の感受性測定結果を解析し、報告書にまとめた。  
成績を日本化学療法学会・日本感染症学会合同学会（2017年4月・東京）、日本臨床微生物学会（2018年2月・岐阜）で報告し、論文を執筆している。
  - ・耳鼻咽喉科領域（2回目：742株）  
2017年3月末までに全国48施設より736検体を収集し対象菌種747株を分離した。好気性菌6菌種の感受性測定を終了し、嫌気性菌の感受性を測定している。
- 5) 第8回（2016年）
- ・呼吸器感染症（8回目：1,105株）  
2017年3月末までに全国32施設より1,105株を収集した。  
42薬剤の感受性を測定し、解析している。
  - ・尿道炎（淋菌）（3回目）  
2017年6月末までに全国30施設より147検体を収集し、87株を分離し、20薬剤の感受性を測定している。
  - ・尿道炎(クラミジア)（3回目）  
2017年6月までに全国25施設より199検体収集し、そのうち分離した58株を培養している。
- 6) 第9回（2017年）
- ・小児科領域感染症（初回）  
2017年12月末までに全国18施設より776株を収集し、32薬剤の感受性測定を準備している。
- 7) 第10回（2018年）
- ・手術部位感染（SSI）（3回目）と歯科・口腔外科領域（2回目）の2領域を対象に実施する計画で準備している。
- 8) VRE株の収集（三学会合同リネゾリド適正使用推進委員会からの依頼）  
第1回（収集期間2016年6月～2017年5月）は保存株を含め157株を収集した。

9) ホームページの更新

手術部位感染（更新）、皮膚科領域感染症（新規）のデータを掲載した。

10. レジオネラ治療薬評価検討委員会（委員長 宮下修行）

- ・収集されたレジオネラ菌（58株）に対し、各種薬剤のMIECを東邦大学にて測定し、第65回西日本支部総会で最終報告を行った。
- ・これまでに収集されたレジオネラ症全例の最終結果をJICに下記の3編を投稿し、掲載された。

第1報 日本のレジオネラ肺炎：臨床像と各種抗菌薬の治療成績

第2報 レジオネラの独立した診断因子の解析

第3報 分離株の薬剤感受性

11. 抗菌薬臨床評価ガイドライン改訂委員会（委員長 河野 茂）

厚生労働省より、当委員会で検討した「抗菌薬の臨床評価方法に関するガイドライン」が平成29年10月23日付で通知され、日本化学療法学会雑誌 第66巻1号（平成30年1月）に掲載した。

12. 呼吸器感染症臨床評価法の改訂委員会（委員長 柳原克紀）

呼吸器感染症の臨床評価法（第二版）に関するアンケート調査を実施し、第66回西日本支部総会でアンケート結果を報告した。

13. JAID/JSC感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会（委員長 青木信樹）

敗血症およびカテーテル関連血流感染症のガイドラインを日本化学療法学会雑誌 第66巻1号に掲載し、男子尿道炎とその関連疾患に関するJAID/JSC感染症治療ガイドラインの翻訳を行った。

14. MRSA感染症の治療ガイドライン作成委員会（委員長 二木芳人）

MRSA感染症の治療ガイドライン改訂版2017を日本化学療法学会雑誌 第66巻3号（5月）に掲載し、冊子版を7月に発行した。

15. 小児用キノロン薬適正使用推進委員会（委員長 渡辺 彰）

- ・第65回学術集会における65周年記念事業において、小児用キノロン薬の使用実態アンケート調査と適正使用に関するサーベイランス調査について報告した。
- ・日本化学療法学会雑誌に委員会報告として「小児感染症分離株における感受性サーベイランス」を投稿した。

16. CDI診療ガイドライン作成委員会（委員長 國島広之）

CDI診療ガイドライン（案）を作成中である。

17. 耐性菌感染症対策ワーキンググループ（委員長 舘田一博）

平成29年12月9日（土）に浜離宮朝日ホール小ホールで、「耐性菌シンポジウム2017 -1年を総括して来年に備える-」を開催し、約300名の参加があった。また、当学会ホームページに講演内容を動画で掲載した。

開会の挨拶

清田 浩（日本化学療法学会理事長／  
東京慈恵会医科大学葛飾医療センター泌尿器科）

第一部：カルバペネム耐性腸内細菌科細菌の院内における広がりを経験して

司会： 舘田一博（東邦大学医学部微生物・感染症学講座）  
三嶋廣繁（愛知医科大学大学院医学研究科 臨床感染症学）

1. 長崎大学  
泉川公一（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科臨床感染症学）
2. 東邦大学  
宮崎泰斗（東邦大学医療センター大森病院総合診療・急病センター）
3. 本邦における疫学の特徴  
菅井基行（広島大学大学院医歯薬学総合研究科細菌学）
4. 総合ディスカッション

第二部：求められる検査法、治療法、感染対策について

司会： 清田 浩（東京慈恵会医科大学葛飾医療センター泌尿器科）  
舘田一博（東邦大学医学部微生物・感染症学講座）

1. 細菌学的特徴と検査法  
石井良和（東邦大学医学部微生物・感染症学講座）
2. 効果的な治療法と感染対策  
竹末芳生（兵庫医科大学感染制御学）
3. 新しい検査法・治療薬  
藤村 茂（東北医科薬科大学薬学部 臨床感染症学教室）
4. 総合ディスカッション

開会のご挨拶 舘田 一博（東邦大学医学部微生物・感染症学講座/  
耐性菌感染症対策ワーキンググループ委員長）

#### 18. 多剤耐性菌に対する治療戦略ワーキング委員会（委員長 三嶋廣繁）

カルバペネム耐性腸内細菌（CRE）による感染症の治療法に関する基礎的検討を、東京医科大学、愛知医科大学、長崎大学と研究契約の締結を行った。

#### 19. 7学会合同感染症治療・創薬促進検討委員会（委員長 舘田一博）

8月3日に日内会館会議室において「最近の創薬促進に関する動きについて」の講演会を行った。

日本製薬工業協会「薬剤耐性（AMR）対策のための医薬品等研究開発促進策に

関する提言」について

山口 栄一（日本製薬工業協会国際委員会幹事／塩野義製薬株式会社）

AMEDにおけるAMR関係のトピックス

中嶋 建介（日本医療研究開発機構）

抗菌薬開発促進にむけたPMDAの取り組み

佐藤 淳子（独立行政法人医薬品医療機器総合機構国際協力室）

DNDi - WHOのAMR対策のための共同イニシアティブGARDPについて

工月達郎（サイエンティフィックリエゾン）

総合討論

#### 20. 8学会合同抗微生物薬適正使用推進検討委員会（委員長 二木芳人）

8月に「抗菌薬適正使用支援プログラム実践のためのガイドンス」をホームページに公表し、日本化学療法学会雑誌 65巻5号（9月）に掲載した。また、ICD資格保持者の施設に、抗菌薬適正使用支援プログラム（ASPs）現状調査のアンケートを実施した。

#### 21. 将来計画検討委員会（委員長 清田 浩）

学会の収支の健全化、多剤耐性菌に対する既存抗菌薬による治療戦略、近未来の学会の大きなテーマについて検討した。また、各種要望書の実現性を高めるための提出先、提出方法について検討した。

#### 22. 外来抗菌薬適正使用調査委員会（委員長 大曲貴夫）

AMR 対策アクションプランや抗微生物薬適正使用の手引きを踏まえ、診療所に勤務する医師の感染症・抗菌薬に対する考え方や処方習慣を知ることがを目的とするため、1,500 の診療所を無作為に抽出し、「抗菌薬適正使用に関するアンケート調査」の無記名式アンケートを実施した。

#### 23. 関連学会対策ワーキング（委員長 三嶋廣繁）

- ・日本化学療法学会の医師会員を増加させることを目的として関連学会との連携を強化するために、日本臨床微生物学会との合同シンポジウムを開催した。
- ・日本化学療法学会の医師会員を増加させることを目的として関連学会との連携強化するために、「単純ヘルペスウイルス（herpes simplex virus : HSV）1型（HSV-1）および2型（HSV-2）の型判別に関わる検査についての早期の保険承認に関する要望書」を作成し、2017年12月に厚生労働省に提出した。

#### 24. 学術集会開催支援ワーキング（委員長 吉田正樹）

2018年および2019年に開催の各学術集会の予算書および業務委託に関する見積書について確認した。

## 25. 特定費用準備資金検討ワーキング（委員長 清田 浩）

- ・平成 29 年 12 月 9 日（土）に浜離宮朝日ホール小ホールで市民公開講座「“悪夢の耐性菌” から子供・老人を守るために」を開催した。

開会のご挨拶：清田 浩（公益社団法人日本化学療法学会理事長／  
東京慈恵会医科大学葛飾医療センター泌尿器科）

司会：渡辺 彰（東北大学加齢医学研究所抗感染症薬開発寄附研究部門）  
館田 一博（東邦大学医学部微生物・感染症学講座）

- 1) 身近に存在する耐性菌  
大曲 貴夫（国立国際医療研究センター病院国際感染症センター）
- 2) 家畜、ペット、食品を介して広がる耐性菌  
藤村 茂（東北医科薬科大学薬学部臨床感染症学教室）
- 3) 新しい診断法、治療薬開発の必要性  
石井 良和（東邦大学医学部微生物・感染症学講座）
- 4) 質疑応答

閉会のご挨拶：渡辺 彰（東北大学加齢医学研究所抗感染症薬開発寄附研究部門）

- ・当学会設立 65 周年を記念して、第 65 回学術集会において、薬剤耐性菌蔓延予防を目的とした社会啓発事業および特定感染症全国サーベイランス事業に関する成果の報告を行った。

司会：渡辺 彰（東北大学加齢医学研究所抗感染症薬開発寄附研究部門）  
門田 淳一（大分大学医学部呼吸器・感染症内科学講座）

- 1) 特定感染症全国サーベイランス事業
  - ・ *Clostridium difficile* 感染症 “1 日” 多施設共同研究について  
館田 一博（東邦大学医学部微生物・感染症学講座）
  - ・ 小児用キノロン薬の使用実態アンケート調査とサーベイランス調査について  
渡辺 彰（小児用キノロン薬適正使用推進委員会）
  - ・  $\beta$  ラクタム系薬耐性腸内細菌科細菌に関する多施設共同研究について  
石井 良和（東邦大学医学部微生物・感染症学講座）
  - ・ 尿路由来 ESBL 産生菌の ESBL の分子生物学的解析について  
高橋 聡（札幌医科大学医学部感染制御・臨床検査医学講座）
- 2) 薬剤耐性菌蔓延阻止を目的とした社会啓発事業  
清田 浩（東京慈恵会医科大学葛飾医療センター泌尿器科）

- ・ 特定感染症全国サーベイランス事業に関する事業として下記の 3 事業を行った。
  - 1) 侵襲性肺炎球菌感染症由来のムコイド型耐性肺炎球菌 (PRSP) に関する研究

- 2) 尿路・性器より検出される *Mycoplasma genitalium* の薬剤耐性遺伝子変異の全国サーベイランス
- 3) 全国におけるグラム陰性桿菌を原因とする血流感染症のアンケート調査

**26. 薬剤耐性感染症を対象とした抗菌薬ガイドライン作成に関する合同委員会（委員長 堀 誠治）**

- ・4月にFDA、EMA、PMDAの3極で新規抗菌薬の臨床評価基準の統一について検討した。
- ・「抗菌薬の臨床評価方法に関するガイドライン」、「抗菌薬のPK/PDガイドライン」および「男子尿道炎とその関連疾患に関するJAID/JSC 感染症治療ガイドライン2017」の翻訳の英文校正を行った。

**27. 社会保険委員会（委員長 迎 寛）**

Latamoxef（シオマリン®）の製造販売継続に関する要望書について検討した。

**28. 利益相反委員会（委員長 河合 伸）**

「日本医学会 COI 管理ガイドライン」の一部改定に伴い、本学会の「医学研究の利益相反（COI）に関する指針」を一部改定し、7月1日付で施行した。

**29. インфекションコントロールドクター (ICD)制度**

平成29年12月 認定者54名

**（2）平成29年度事業報告の附属明細書について**

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する事業報告附属明細書「事業報告書内容を補足する重要な事項」に記載すべき事項はない。

# 平成30年度事業計画

## 事業計画

### (1) 学術集会および会務

#### A) 学術集会

1. 第66回総会（平成30年5月31～6月2日）  
会場：岡山コンベンションセンター 他  
会長：尾内一信（川崎医科大学小児科学講座）
2. 第65回東日本支部総会（平成30年10月24日～26日）  
会場：東京ドームホテル  
会長：川名明彦（防衛医科大学校感染症・呼吸器内科）
3. 第66回西日本支部総会（平成30年11月16日～18日）  
会場：かごしま県民交流センター  
会長：森田邦彦（同志社女子大学薬学部臨床薬剤学）
4. 本年関連国際学会として  
17th Asia Pacific Conference on Clinical Microbiology and Infection  
平成30年8月30日～9月2日（香港）

#### B) 会務

1. 理事会、評議員会の開催について  
理事会年6回、評議員会年1回を予定
2. 関連団体への対応  
日本医学会に評議員及び医学用語委員会委員を、内科系学会社会保険連合にそれぞれの委員を派遣する。

#### C) 事業計画

##### 1. 編集委員会

- 1) 日本化学療法学会雑誌
  - ・6冊発行予定（第66巻3～6号、第67巻1～2号）
  - ・編集委員会は年2回開催し、隔月でメール審議を行うようにする。
- 2) Journal of Infection and Chemotherapy
  - ・電子版を12号、冊子版を2号合併号として6冊を発刊する予定である。
  - ・編集委員会を隔月開催とする。
  - ・JIC賞の選考を行う。
- 3) 用語委員会  
略語の申請の依頼があれば適宜、対応する予定である。

## 2. 広報委員会

会員に最新号の目次と学会からのお知らせをメールで配信する予定である。

## 3. 学術委員会

学術奨励賞を選考する。

## 4. 学会賞選考委員会

志賀潔・秦佐八郎記念賞および上原感染症・化学療法研究奨励賞の選考を行う。

## 5. 国際渉外委員会

関連国際会議として、平成 30 年 8 月 30 日～9 月 2 日に 17th Asia-Pacific Congress of Clinical Microbiology and Infection が香港で開催される予定である。

## 6. 臨床試験委員会（委員長：二木芳人）

依頼があれば適宜、対応していく予定である。

## 7. 三学会合同ブレイクポイント臨床応用検討委員会

カルバペネム系抗菌薬のブレイクポイント見直し作業を実施し、発表する予定である。

## 8. 抗菌化学療法認定医認定制度審議委員会

### 1) 抗菌薬適正使用生涯教育セミナー

- ・抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催予定

年次テーマ：抗菌薬の misuse / overuse を無くす

第 46 回 平成 30 年 6 月 1 日（金）岡山コンベンションセンター

第 47 回 平成 30 年 9 月 1 日（土）東京国際フォーラム

第 48 回 平成 30 年 10 月 24 日（水）東京ドームホテル

第 49 回 平成 30 年 11 月 16 日（金）かごしま県民交流センター 県民ホール

- ・1 日コースを映像収録し、e-learning を作成する。

### 2) 抗菌化学療法認定医および指導医の資格認定

- ・6 月末 指導医認定試験の受験願書を締め切る。

- ・10 月末 指導医・認定医・認定歯科医の認定申請を締め切る。

- ・12 月 9 日（日）に指導医試験を実施し、認定申請審査の委員会を開催する。

- ・平成 31 年 1 月 1 日付けで認定

### 3) 抗菌薬適正使用生涯教育テキスト

- ・改定版（平成 13 年）以降の新しい薬剤などを含み、改定第 3 版を刊行予定である。

上記事業計画を円滑に遂行するため、委員会を数回開催予定。

## 9. 抗菌化学療法認定薬剤師制度委員会

- ・第 19 回講習会を日本 TDM 学会前日の平成 30 年 5 月 25 日（金）に、九州大学医学部百年講堂で開催した。

- ・第 20 回講習会を日本医療薬学会年会時に神戸コンベンションセンターにて開催する予定である。

- ・上記の2つの講習会は、いずれも“アドバンス”タイプのものと位置づけ、東日本支部総会および西日本支部総会で開催する“ベーシック”タイプの講演を入門者向けとして本学会への薬剤師入会の意欲促進を図る予定である。
- ・認定薬剤師試験を実施し、認定を行う予定である。
- ・平成31年3月1日付けで認定証発行する予定である。
- ・薬剤師講習会用テキストの改訂作業を引き続き行う予定である。

## 10. 三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会

### 1) 第5回(2013年)

- ・歯科口腔外科領域感染症(初回・847株)  
論文をJICに掲載する予定である。

### 2) 第6回(2014年)

- ・呼吸器感染症(7回目:1,534株)  
論文をJICに掲載する予定である。

### 3) 第7回(2015年)

- ・複雑性尿路感染症(3回目:833株)  
成績を日本化学療法学会・日本感染症学会合同学会(2018年6月・岡山)、日本臨床微生物学会(2019年2月)で報告する。  
論文をJICに掲載する予定である。
- ・急性単純性膀胱炎(2回目:263株)  
論文をJICに掲載する予定である。
- ・耳鼻咽喉科領域(2回目:742株)  
40薬剤の感受性測定を実施し解析後報告書にまとめる予定であり、また、論文をJICに掲載する。

### 4) 第8回(2016年)

- ・呼吸器感染症(8回目:1,105株)  
42薬剤の感受性測定結果を解析後報告書にまとめる予定である。  
成績を日本化学療法学会・日本感染症学会合同学会(2018年6月・岡山)、日本臨床微生物学会(2019年2月)で報告する予定である。  
論文をJICに掲載する予定である。
- ・尿道炎(淋菌)(3回目:87株)  
20薬剤の感受性測定結果を解析し、報告書にまとめる予定である。  
論文をJICに掲載する予定である。
- ・尿道炎(クラミジア)(3回目)  
培養(58株)後、感受性測定が可能な株について9薬剤の感受性を測定し、解析後報告書にまとめる予定である。  
成績を日本臨床微生物学会(2019年2月)で報告する予定である。  
論文をJICに掲載する予定である。

### 5) 第9回(2017年)

- ・小児科領域感染症(初回:776株)  
32薬剤の感受性を測定し解析後報告書にまとめる予定である。

論文を JIC に掲載する予定である。

- 6) 第 10 回 (2018 年)
    - ・手術部位感染 (SSI) (3 回目:目標 1,000 株)  
2019 年 6 月末までに菌株を収集する予定である。
    - ・歯科・口腔外科領域 (2 回目:目標 400 株)  
2019 年 3 月まで検体を収集し、感受性測定の前準備を行う。
  - 7) VRE 株の収集 (三学会合同リネゾリド適正使用推進委員会からの依頼)  
5 月末で第 2 回の収集を終了し、回収後感受性測定を行う。  
第 3 回 (最終) (収集期間 2018 年 6 月~2019 年 5 月) を開始する。
  - 8) ホームページの更新
  - 9) 三学会の合同事業となって 10 年の特別企画を「委員会報告」【日本化学療法学会・日本感染症学会合同学会 (2018 年 6 月・岡山)、日本臨床微生物学会 (2019 年 2 月)】で行う。
11. レジオネラ治療薬評価検討委員会  
第66回日本化学療法学会総会 (岡山) において、レジオネラのデータ詳細を報告し、サブ解析のデータを論文化する予定である。
  12. 呼吸器感染症臨床評価法の改訂委員会  
呼吸器感染症臨床評価法のガイドラインの改訂を行う予定である。
  13. JAID/JSC 感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会
    - ・男性性器感染症の JAID/JSC 感染症治療ガイドラインを日本化学療法学会雑誌に掲載して、英語版を Journal of Infection and Chemotherapy に投稿する予定である。
    - ・JAID/JSC 感染症治療ガイド 2018 の発行に向けて各項目の改訂作業を行う予定である。
  14. MRSA 感染症の治療ガイドライン作成委員会  
新規抗 MRSA 薬が発売予定であり、その他の新しい情報も加えて 2018 年改訂版 (マイナー改定) 作成を予定している。改定項目は総論 (疫学、抗 MRSA 薬の選択など)、各論 (皮膚軟部組織感染症他)、抗 MRSA 薬一覧など。
  15. 小児用キノロン薬適正使用推進委員会  
小児用キノロン薬の使用実態アンケート調査と適正使用に関するサーベイランス調査を JIC 等に投稿する予定である。
  16. CDI 診療ガイドライン作成委員会  
「CDI 診療ガイドライン」を完成させ、パブコメを求めて発行する予定である。
  17. 多剤耐性菌に対する治療戦略ワーキング委員会
    - ・カルバペネム耐性腸内細菌 (CRE) による感染症の治療法に関する基礎的検討を契約に基づいて継続する。
    - ・委員会において文献的検討を開始する。

## 18. 7学会合同感染症治療・創薬促進検討委員会

- ・これまで議論されてきた創薬コンソーシアムについて、DNDi, IMIおよびAMEDの活動と連動させてその設立を議論する。
- ・「抗菌薬の適正使用と新しい抗菌薬開発の必要性」(案)の提言発表について話し合う。

## 19. 抗微生物薬適正使用推進検討委員会

抗菌薬適正使用支援プログラム(ASPs)現状調査の結果を論文化し、東日本支部総会もしくは西日本支部総会で報告する予定である。現状調査の評価に基づいて、次の事業(講習会の実施、ガイダンスの追補版や職種別各論作成など)を計画する。

## 20. 将来計画検討委員会

各種要望書の実現性を高めるための提出先、提出方法について検討する予定である。

## 21. 外来抗菌薬適正使用調査委員会

「抗菌薬適正使用に関するアンケート調査」の結果を論文化し、第66回総会の委員会報告で報告する予定である。

## 22. 関連学会対策ワーキング

- ・日本化学療法学会の医師会員を増加させることを目的として関連学会との連携を強化するために、日本DDS学会との合同シンポジウムを開催する。
- ・日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会、日本性感感染症学会、日本泌尿器科学会、日本小児感染症学会、日本呼吸器学会、日本骨・関節感染症学会、日本眼感染症学会、日本消化器病学会、日本外科感染症学会などと合同シンポジウム開催に向けた調査・検討を継続する。

## 23. 学術集会開催支援ワーキング

各学術集会の予算書および業務委託に関する見積書を確認する予定である。

## 24. 薬剤耐性感染症を対象とした抗菌薬ガイドライン作成に関する合同委員会

「抗菌薬の臨床評価方法に関するガイドライン」、「抗菌薬のPK/PDガイドライン」および「男子尿道炎とその関連疾患に関するJAID/JSC 感染症治療ガイドライン2017」の翻訳の確認作業を行い、「薬剤耐性菌感染症を対象とした抗菌薬臨床評価ガイドライン」を作成する予定である。

## 25. 社会保険委員会

要望があれば適宜、対応していく予定である。

## 26. 利益相反委員会

日本医学会の動向をみて、利益相反指針および細則を改定する予定である。

## 27. インфекションコントロールドクター(ICD)制度

申請締切：平成30年10月31日